

安全・安心なAコープマーク品を学ぶ ～生活モニター会議～

全農かながわ生活課主催の「第4回生活モニター会議」が12月16日、JAビルかながわで開催され、県下8JAの生活モニターやJA職員ら20名が参加した。「生活モニター会議」は、生活モニターに選任された県下JAの女性部員を対象に開催するもので、今年度は全4回の開催。商品メーカー担当者による商品研修会や工場視察などを通し、Aコープマーク品の品質の高さや、安心安全な商品開発などの商品知識を身に付け、JA女性部活動に役立ててもらおうというもの。27年度は、JA全農営農・技術センターで「Aコープマーク品」の歴史や商品開発方針などを学んだほか、東洋羽毛工業㈱の羽毛工場や、横浜港の輸入食品保管状況などを視察した。

最終回となる今回は、「寒天」「はちみつ」について各メーカー担当者が研修を行った。まず、伊那食品工業㈱担当者が、従来のようにお湯で溶かさず、最初から牛乳に溶かすことができる新しい寒天商品を紹介し、寒天をとり入れたヘルシー料理を提案した。㈱藤井養蜂場の担当者は、国内で流通する蜂蜜の約9割が輸入品である事や、日本の養蜂の現状について説明した後、砂糖やみりんの代わりに蜂蜜を活用した料理をいくつか紹介した。試食した参加者からの評判は上々だった。

一年間の活動を終えた生活モニターからは、「Aコープマーク品や国産の食品を意識して選ぶようになった」「活動を通して、安全で安心なAコープ商品の良さを実感した。支部の女性部員たちに伝えたい」「いつでも買えるよう、店舗での取り扱いアイテム数を増やして欲しい」などの感想が聞かれた。

生活モニターによる商品を使用した感想や意見は集約され、JA組合員向け生活品回覧チラシ「大地のレシピ」に「生活モニター会議メンバーおすすめ商品」マークを付けるなど、実際にJA生活事業に活用されている。生活課は「今後もモニターから寄せられたご意見は、商品開発等に反映させていく」と話している。来年度以降は、『健康』など「テーマ」を設定したモニター会議の開催を計画している。



スライドを使い、より手軽になった新商品の説明を行う



実演するメーカー担当者の手元を熱心に見る参加者